

# リハビリに特殊学級 センター

## 県教委 水俣市教委 水俣病の子供中心に

県教委と水俣市教委は、現在水俣市の湯の児リハビリ・センターに入院している水俣病の子どもたちのための特殊学級を病院内に新設する計画である。

このため、水俣市教委では、二十六日の市教育委員会に設置を提案、医師、教育専門家などによる判定委員会を作って、該当児がどれくらいいるのか、また特殊学級に入学させる水俣病児の対象範囲をどの程度にするか、など具体的な調査に着手する。

市教委では第一小学校の分校として院内に設ける計画で、判定委員会との調査結果を待って、九月市議会に提案する方針である。いっぽう、県教委でも分校新設には原則的に賛成の態度を決めており、九月末までには水俣市教委から必

要な教職員数を要求してもらい、来年度当初予算で予算要求する手順である。このため、分校施設は来年四月になるもよう。

また、県、市教委とも病院内に  
いる脳性マヒや交通事故で手足が不自由になった子ら（現在十四人）を対象にしたい意向で判定委員会に検討を求める。

現在、湯の児リハビリ・センターには、義務教育年齢の水俣病児が九人いる。うち二人が第一小の特殊学級に通学しているが、その他に家庭で療養している水俣病児が十一人にいる。このうち特殊学級に通っているのはわずか四人で、大半が教育の機会均等のワケ外に置かれている。

このため、水俣病患者家庭互助会（中津芳美会長）同市民会議（日吉ふみ子会長）ではさきの三月県会に「教育可能な水俣病児が十人前後いる」と特殊学級の設置を陳情していた。

◇和久田水俣市教育長の話  
前から設けたいと思っていたが、この子らにも教育を受ける権利はあるのだし、設置を急ぎたい。ただ、専門家で構成する判定委の結果がわからないと具体的な計画は打ち出せない。九月市会には提案する。

◇黒田県教委学務課主事の話  
県でもできるだけ早く設置したいので、判定を急ぎ、九月には具体的な教員数の要求をするように指示した。